

第1学年 国語科学習指導案

児 童 1年4組 29名

指導者 太 田 彩 音

1 単元名 順序に気をつけて読み、分かったことや考えたことを伝え合おう

中心学習材名『じどう車くらべ』（光村図書1年下）

補助学習材名 大きなずかん はたらくじどう車 はたらくじどう車しごととつくり 他

2 単元構想

（1）児童について

児童は、『つぼみ』や『うみのかくれんぼ』の学習を通して「問い」と「答え」の関係や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え、文章の中の重要な語を選び出す経験を重ねてきている。また、事柄の順序に沿って大事な言葉や文を見つけてまとめ、分かったことを友達に伝える言語活動も行っている。一方で、内容の大体を捉えることはできるようになってきているものの、事柄の順序に沿って大事な言葉や文を選び出したり、それらの関係を捉えて読んだりする力が十分に身に付いているとは言えない。

そこで本単元では、自動車の「しごと」と「つくり」の関係に着目して読み進めることを通して、事柄の順序や事柄相互の関係を考えながら内容の大体を捉える力を育てていきたい。

（2）学習材について

本単元で育成を目指す資質・能力は、読むことC（1）ア「事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」である。

中心学習材『じどう車くらべ』は、「どんな『しごと』をするのか」、「そのためにどんな『つくり』になっているのか」という「問い」に対し、3種類の自動車を身近な順から事例として取り上げて「答え」が説明されている文章である。各事例とも、「しごと」とそれを支える「つくり」が「そのために」でつながる明確な構成であり、文章中の重要な語や文を考えて選び出し、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えることを身に付けるのに適した学習材である。

（3）指導にあたって

本単元の学習を進めるにあたり、次の点に留意して指導する。

視点① 教科等の本質的な活動の設定

事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えるために、「自動車の『しごと』と『つくり』を読み、「分かったことや考えたことを伝え合う（じどう車はかせになろう）」という言語活動を設定する。文章中の「しごと」と「つくり」の関係を順序立てて整理しながら相手に伝えることになる。

視点② 自分を見つめる支援

身に付けた力をつなげて学ぶことができるように、単元の導入では、前単元前までの学習内容を振り返り、「問いと答え」や「大事な言葉を見付ける」といった既習事項を、教室掲示等も活用しながら想起できるようにする。また、「じどう車」への興味・関心を高めることができる環境を整え、学習課題を必要感をもって設定できるよう情意面から支援する。単位時間の導入では、前時までの学び方を振り返り、それを基に見通しをもつことができるようにする。

学んだ内容について自覚できるように、単位時間の終末では、どのようなことが分かったのかという観点で振り返る場面を設ける。単元の終末では、「しごと」と「つくり」の関係や説明の順序について振り返り、用いた読み方や考え方のよさと関係付けられるようにする。

視点③ 思考を促し学びをつなぐ支援

「しごと」と「つくり」の関係を具体的に理解できるように、「なぜ、その『つくり』が必要なのか」、「その『つくり』がなかったらどうなるのか」を考える活動を取り入れ、ペアやグループ等で動作化したり、文章と挿絵を関係付けて説明し合ったりする場面を設ける。

3 単元の目標

- ◎ 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) ア

- 事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2) ア

- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) ウ

- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに学びに向かう力、人間性等〕

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など情報と情報の関係について理解している。 ((2) ア)	①「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C(1) ア) ②文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C(1) ウ)	①進んで、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学習の見通しをもって、分かったことをまとめようとしている。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	○知っている自動車について話し合い、学習への興味をもつ。	・児童から出てきた言葉を「しごと」と「つくり」という言葉に置き換えながら意識をもてるようにする。	
二	2	○「じどう車くらべ」を読み、大まかな構成を捉え、内容の大体を捉える。 ○単元の学習の見通しをもち、単元のめあてを	・二つの「問い」と、三つの事例を挙げて「答え」が書かれていることを確かめる。 ・はしご車の「しごと」と「つくり」を考えるという	・〔思考・判断・表現②〕 <u>発言・ワークシート</u> ・「しごと」を表す大事な語や文を捉えているかの確認

		立てる。	見通しと興味をもてるようにする。	
三	3	○バスや乗用車の「しごと」と「つくり」について読む。	・読み取ったことを整理することで、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」の違いや説明の順序性について気付けるようにする。 ・なぜその「つくり」が選択されたのか「しごと」と関係付けて考えられるようにする。	・〔知識・技能①〕 <u>発言・ワークシート</u> ・説明の順序など「しごと」と「つくり」の関係について理解しているかの確認
	4	○トラックの「しごと」と「つくり」について読む。		○〔思考・判断・表現①〕 <u>発言・ワークシート</u> ・「しごと」と「つくり」の順序を考えながら、内容の大体を捉えているかの確認
	5 本時	○クレーン車の「しごと」と「つくり」について読む。		
				○「主体的に学習に取り組む態度①」 <u>発言・ワークシート</u> ・「しごと」と「つくり」の関係について、分かったことや考えたことを進んで伝えているかの確認
	6	○「じどう車くらべ」の様々な順序について考え、その意図を話し合う。	・説明の順序、「つくり」の順序、事例の順序についてそれぞれの自動車を比べ、その意図に気付けるようにする。	○〔思考・判断・表現①〕 <u>発言・ワークシート</u> ・事柄の順序について考え、文章全体の内容を捉えているかの確認
三	7	○はしご車の「しごと」をするための「つくり」を選び、読み取りカードにまとめる。 ○学習をまとめる。	・これまでの学習で捉えてきたことを生かし、「しごと」に合った「つくり」を選び、文章にまとめられるようにする。	

6 本時の指導（5／7時）

- （１） 目標 「クレーン車」の「しごと」と「つくり」を読み、事柄の順序などを考えながら、
内容の大体を捉えることができる。 [思考力・判断力・表現力等]

（２）展開

段階 時間	学 習 活 動 ☆思考方法	発問と予想される児童の反応 (◎主発問 ○発問 ・反応)	考えを深めるための手立て 評価
導 入 8 分	1 前時の学習を想起し、 本時の課題を確認する。 クレーン車は、どうしておもいものをつりあげるしごと ができるのだろう。	○「問い」の文を確かめま しょう。 ○クレーン車の「しごと」は なんでしょう。	
	2 課題解決の見通しをもつ。	○どうすれば、課題が分かります か。	・ 掲示物で確認しながら「つ くり」を見つけると課題の 解決につながりそうなこと を確認する。（視点②）
展 開 30 分	3 課題を解決する。 （１）クレーン車の「しごと」と「つくり」を 捉える。 ○色分けをしてサイドラ インを引く。 （２）クレーン車の「しごと」と「つくり」の 関係について分かったことや考えたこと を伝え合う。 ○「つくり」につい て、分かったことや 考えたことを伝え合 う。 ☆関係付ける （３）まとめる クレーン車がおもいものをつりあげるしごと ができるのは、じょうぶなうでやしっかりしたあし がついているから。	○「つくり」を確認しましょう。 ・ 丈夫なうでがのびたりうご いたりする。 ・ しっかりしたあしがついて いる。 ◎どうして、この「つくり」だ と重いものをつりあげること ができるのでしょうか。 ・ 丈夫な腕でないと重いもの は持てないから。 ・ しっかりしたあしがないと、 クレーン車が倒れて危ない から。 ・ 前体育館の屋根を直してい た大きな車にもしっかりし たあしがついていたよ。 ○まとめの文を作しましょう。	・ 「しごと」と「つくり」で 色分けをしてサイドライン を引く活動を設定すること で、「しごと」と「つく り」の順序を可視化できる ようにする。（視点③） ・ 「しごと」と「つくり」の 関係を問う発問をすること で「しごと」と「つくり」 が結びついていることにつ いて、多様な考えを引き出 すことができるようにす る。（視点③） 〔思考・判断・表現②〕 発言・記述 クレーン車の「しごと」と 「つくり」の順序を考えな がら、「しごと」に合わせ た「つくり」になっている ことを友達に伝えたり、ま とめとして書いたりして いる。
終 末 7 分	5 学習を振り返る。 （１）本時の学習を振り返る。 （２）次時の学習への見通 しをもつ。	○前に学習した自動車とくら べて、分かったことを書き ましょう。 ○次の時間、はしご車を学習 します。何を見付けてまと めていけばよいですか。	・ 本時の学習を板書で振り返 り、「しごと」に合った「つ くり」が説明されていたこ とを明らかにする。

(3) 本時の評価規準

クレーン車の「しごと」と「つくり」の順序を捉え、「しごと」に合わせた「つくり」になっていることを友達に伝えたり、まとめとして書いたりしている。〔思考・判断・表現〕

B	支援を要する児童への手立て
【目指す姿の具体例】 クレーン車がおもいものをつりあげるしごとができるのは、 じょうぶなうでやしっかりしたあしがあるから。	大事な言葉を確認、文章と挿絵を 照応することで、「しごと」と「つく り」の関係に気付くことができるよ うにする。